

春の夜は

芥川龍之介

青空文庫

一

僕はコンクリイトの建物の並んだ丸の内の裏通りを歩いてゐた。すると何か匂を感じた。何か、？——ではない。野菜サラダの匂である。僕はあたりを見まはした。が、アスファルトの往来には五味箱ごみばこ一つ見えなかつた。それは又如何にも春の夜らしかつた。

二

U——「君は夜は怖くはないかね？」

僕——「格別怖いと思つたことはない。」

U——「僕は怖いんだよ。何だか大きい消しゴムでも噛んでゐるやうな気がするからね。」

これも、——このUの言葉もやはり如何にも春の夜らしかつた。

三

僕は支那の少女が一人、電車ひとりに乗るのを眺めてゐた。それは季節を破壊する電燈の光の下だったにもせよ、實際春の夜よに違ひなかった。少女は僕に後ろを向け、電車のステツプに足をかけようとした。僕は巻煙草を銜くはへたまま、ふとこの少女の耳の根に垢あかの残つてゐるのを発見した。その又垢は垢と云ふよりも「よごれ」と云ふのに近いものだつた。僕は電車の走つて行つた後のちもこの耳の根に残つた垢に何か暖さを感じてゐた。

四

或春の夜よ、僕は路ばたに立ち止つた馬車の側を通りかかった。馬はほつそりした白馬しろうまだつた。僕はそこを通りながら、ちよつとこの馬の頸すぢに手を触れて見たい誘惑を感じた。

五

これも或春の夜のことである。僕は往^{わう}来^{らい}を歩きながら、鮫^{さめ}の卵を食ひ出した。

六

春の夜の空想。——いつかカツエ・プランタンの窓は広い牧^{ぼく}場^{ちやう}に開いてゐる。その又牧場のまん中には丸焼きにした鶏が一羽、首を垂れて何か考へてゐる。……

七

春の夜の言葉。——「やすちやんが青いうんこをしました。」

八

或三月の夜、僕はペンを休めた時、ふとニツケルの懷中時計の進んでゐるのを発見した。隣室の掛け時計は十時を打つてゐる。が、懷中時計は十時半になつてゐる。僕は懷中時計を置き火燵ごたつの上に置き、丁寧ていねいに針を十時へ戻した。それから又ペンを動かし出した。時間と云ふものはかう云ふ時ほど、存外ぞんぐわいに過ぎることはない。掛け時計は今度は十一時を打つた。僕はペンを持つたまま、懷中時計へ目をやると、——今度は不思議にも十二時になつてゐた。懷中時計は暖まると、針を早くまはすのかしら？

九

誰か椅子の上に爪を磨いてゐる。誰か窓の前にレスをかがつてゐる。誰かやけに花をむしつてゐる。誰かそつと鸚鵡あうむを絞め殺してゐる。誰か小さいレストランの裏の煙突の下に眠つてゐる。誰か帆船ほまへせんの帆をあげてゐる。誰か柔い白パンに木炭画の線を拭つてゐる。誰か瓦斯ガスの匂におひの中にシヤベルの泥をすくひ上げてゐる。誰か、——ではない。まるまると肥つた紳士が一人、ひとり「詩韻含英しゆんがんえい」を拡げながら、未だいまに春宵しゆんせうの詩を考へてゐる。

……

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介作品集第四卷」昭和出版社

1965（昭和40）年12月20日発行

入力：j.utyama

校正：かとうかおり

1999年1月27日公開

2010年11月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

春の夜は

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>